

ひかりのこ

2月園便り

聖ミカエル幼稚園
2014年1月24日発行

月主題：育ちあう仲間

毎日、肌を刺すような冷たい空気の中、幼稚園やバス停留所までの送り迎え、ありがとうございます。お子さんと手をつなぎながらの登降園、どんなことをお話しされているのでしょうか。「今日の仲良しランチ、楽しみだねえ。」とか、「今日〇〇ちゃんとかんなお話をしたよ。」など、楽しい会話が交わされているでしょう。

いつでしたか、通勤途中、「危険だなあ…」という場面がありました。朝早かったので、保育園に向かう親子でしょうか。お母さんは高いヒールをはいて、携帯を片手に、コツコツ音を立てて歩いています。3、4歳くらいの女の子はお母さんより1メートルくらい前の横断歩道を一人で渡っています。『どうして手をつながないのだろう?』そう思ってしまいます。スーパーなどの駐車場でも車を降りた子どもが、一人で駆け出す場面をよく見かけます。事故に遭わないか、ひやひやします。どうして子どもと手をつながないのでしょうか。自分のお子さんだけは、「危険な目」に遭わないと、信じているのでしょうか。「子どもが手を振りほどくから」という理由の方もいらっしゃるでしょうが、それで事故が起きてしまったら元も子もありません。

先日全道の園長研修が開かれ、2012年度の子どもの死亡事故についての事例集が配られました。「交通事故」の覧では、子どもが一人で踏切に入ってはねられた事故、立体駐車場で、子どもが一人で車から出て、機械に挟まれて亡くなった事故、お家の敷地内でお父さんがバックした車にはねられた事故など、たくさんの事例が載っていました。どれもかわいそうで、そして背筋がぞっとするような事故です。大人がしっかり見ていれば防ぐことができたのに、という事故がほとんどです。幼稚園では園外保育に行くときには必ず子ども達は手をつなぎます。年少さんを内側にして、注意深く歩きます。それと、お父さんやお母さんの大きな手でお子さんの手を包み込むのは、危険防止のためだけではありません。お子さんに安心感を与え、親子のきずなを深めるためにもとても大切な行為であると思います。下の子がいて手が足りないときは、一緒にベビーカーを押したり、先に行かないように声をかけ、車道はお子さんを守るように手をつないだりお母さんの服をつかませたりするといいと思います。

子どもと歩くと、自分一人で歩くときには気づかない周囲のいろいろな自然に出

会います。春なら各お宅の庭先に咲く色とりどりのお花、夏には草むらの虫たち、秋には木々の紅葉、冬の朝には木の枝に積もった雪に反射するキラキラした陽の光、ちょっと歩くだけでたくさんの発見があります。子どもと手をつないで、一緒に「ああきれいだねえ。」「おもしろいねえ。」とお話しながら、どうぞ明日も幼稚園にいらしてください。いつも言いますが、そんな素敵な時間を過ごせるのも「今だけ」ですよ。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

寒い日が続いています。このような時期は、暖かいお茶で心も体も温めたいものです。さて、今日は皆さんに暖かくそして、美味しく頂けるお茶のレシピを紹介したいと思います。お茶の名前は「愛茶」です。レシピは次のようなです。まず、材料を紹介します。材料はどの家庭でもすぐに手に入れる簡単なものばかりです。「怒り、不平不満、高慢、プライド、苛立ち、そして、イエス様の愛」です。この基本材料以外にお好みで、いろいろなものを加えたりもできますので、材料はどうぞ自由に組み合わせてください。ただし、イエス様の愛がなかったら「愛茶」にはなりませんので、これだけは抜けないようお願いいたします。材料が揃ったら次は簡単な下ごしらえです。まず、怒りと不平不満の根を切り、細かくみじん切りにしておきます。根元は惜しまず切りましょう。高慢とプライドは、中身を抜き取った後、きれいに洗って乾かします。苛立ちは皮をむき、半分に切って置きます。そして、準備されたすべての材料をイエス様の愛に漬けておきます。愛茶の入れ方：用意された材料を忍耐とお祈りを加えて材料の形が完全に崩れ、苦味がなくなるまで煮込みます。よりよく溶かすため、喜びと感謝でよくかき混ぜて、笑顔を少し加えるとさらに美味しくなります。家族に出すときはお茶の上に微笑を少し乗せたらなお美味しくいただけます。如何でしょうか。厳しいこの寒さを愛茶で乗り越えてみては。「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(聖書)

チャプレン 司祭 ジョシュア 李 香男